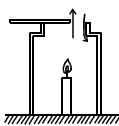


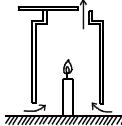
解 答

- ① 1 水 2 大 3 ろうそくを燃やすために十分な量の酸素がなくなった。

4 (1) 図①



図②



- (2) あたためられた空気は軽くなり上にあがり、下から新しい空気が入るから。 5 ① ピンセットでしんをおさえることで、ろうの液体がしんをのぼることができなくなつたから。 ② 鉄板によってほのおの熱がさえぎられ、固体のろうが液体に変化できなくなつたから。

- ② 1 ① 青むらさき ② 大き ③ でんぶん ④ 糖 ⑤ 小腸 ⑥ 柔突起

2

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
○か×	×	×	△	△	×	×
記号	ア	エ	なし	なし	カ	オ

- ③ 1 50 2 40

3

	比べるもの	左側になる方
①	ウとエ	ウ
②	アとエ	エ
③	イとウ	ウ

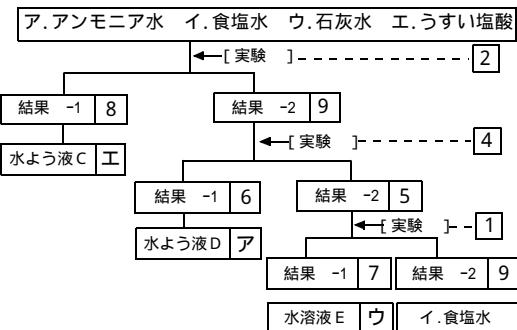
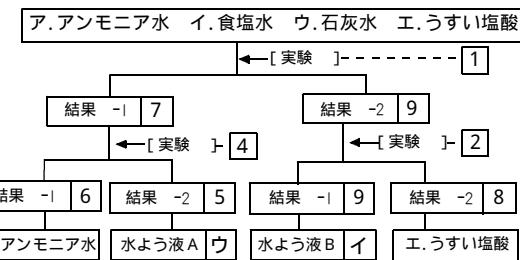
- 4 ウ 5 (イ, エ), (ア, ウ) 6 大きな電流が流れ電磁石が熱くなり、やけどの原因などになるから。

- ④ 1 (1) エ (2) イ 2 方位磁針の近くに磁石や磁石につく鉄などを置かない。 3 (1) 夏 (2)

イ (3) 天の川 4 いて座 理由 高度が低いので、地上の明かりの影響を受けやすいから。

- 5 <分け方：1>

<分け方：2>



解 説

- ① 1 3 ろうそくが燃えるためには、ある濃さ以上の酸素を必要とします。酸素の濃度が低くなると、酸素が残っていてもろうそくを燃やし続けることができなくなります。

- 5 ② 鉄板に熱をうばわれると芯のまわりの液体のロウが冷やされて固体となり、芯を上げることができなくなります。

- ② 2 (1) アから、低温にするとだ液がはたらかないことが分かります。

(2) エから、高温のときにもだ液がはたらかないことが分かります。

(3)・(4) だ液をふつとうさせたり、こおらせたりする実験はしていません。

(5)・(6) ごはんをふつとうさせたりこおらせたりしても、温度を36℃にすることでだ液が十分にはたらないことがあります。オの結果から分かります。

- 5 <分け方：1> 実験①でアルカリ性であるアンモニア水とその他のグループに2つずつ分かれていることから、赤色リトマス紙をつけたことが分かります。実験②で固体の溶けている石灰水と気体の溶けているアンモニア水を分かれていることから、スライドガラスにとって軽くあたため、残った物質のようすを調べたことが分かります。実験③では、酸性である塩酸とその他（中性）の水溶液を分かれているため、青色リトマス紙をつけたことがあります。

<分け方：2> 実験④で、酸性である塩酸とその他3つの水溶液に分かれているため、青色リトマス紙をつけたこ

とが分かれます。実験⑤で、気体がとけている水溶液と固体が溶けている水溶液2つを分けているため、スライドガラスにとって軽くあたため、残った物質のようすを調べたことが分かれます。実験⑥でアルカリ性とその他中性の水溶液に分けているため、赤色リトマス紙をつけたことが分かれます。